

令和6年度 学校園評価シート

学校園名

加古川市立川西こども園

- 1 教育・保育目標 「一人一人を大切にし、自分らしさを発揮するこどもを育てる」
- ・生活リズムを整え、健康な心と体を育む
 - ・遊びを通して人と関わる喜びを感じ、信頼関係を育む
 - ・自然と触れ合い、感じる心や伸び伸びと表現する力を育む
 - ・どんなことにも挑戦する意欲を育む

- 2 指導目標 (1) 自分らしさを発揮し、素直に表現するこども (2) 友達を大切にし、思いを共有して遊ぶこども (3) 最後まで粘り強く取り組むこども

<点検結果評価基準> A: 達成している B: まあまあ達成している C: あまり達成していない D: 達成していない

I 経営の重点に関すること

重点目標	実践目標	評価項目	評価	○取り組み状況 ▲課題 ◎改善策
1 自分らしさを発揮し、素直に表現する子供	一人一人の特性や課題をとらえ、望ましい人間形成につながるよう努める。	園児の表情、しぐさ、言葉などから内面理解し、園児が達成感・満足感が得られる適切な言葉かけや対応、環境構成はできたか。	B	○年間指導計画、月別指導計画をもとに、週日案を立ててねらいをもって関わるようにしている。 ○実体験を大切にしたいが、実際に見ることができないものなどは、各クラスでインターネットを活用している。 ▲保育の話合いや教材研究に十分な時間、保育教諭の心の余裕が必要である。 ◎一人一人をよく観察し、一日の様子、保育教諭の関わりを振り返り、具体的な援助を考える。 ◎理解することが難しい園児にも分かる言葉を使うように心掛け、みんなが分かって活動できる場を大切にする。
		園児がのびのびと発達に応じた方法で表現できるように教材研究をしたか。	B	
		園児の表現しようとする意欲や態度を記録し、次の活動に生かすことができたか。	B	
2 友達を大切にし思いを共有して遊ぶ子供	友達と心を通わせながら、人間尊重を基礎にした温かいふれあいのある生活を送る。	園児が安心感をもって登園し、身近な人と親しみを持てるような援助を心がけたか。	B	○保育教諭から園児や保護者にも笑顔で挨拶をし、元気に登園したり、保護者と離れる寂しい気持ちに寄り添ったりしながら一人一人のありのままの姿を受け止め安心して生活できるよう心掛けている。 ○友達との関わりでは、互いの気持ちを伝え合う場をもち、年齢に合わせた対応を行っている。 ▲担任一人でクラス全体をまとめようとすると、一人一人と丁寧な関わりがもちにくくなる。 ◎好きな遊びでの異年齢交流を行い、保育教諭みんなで園児一人一人のよさを受け止め、周りにも広めるようにする。
		保育教諭や友達と一緒にいることや、活動することの楽しさを感じられるような関わりはできたか。	A	
		園児の心の読み取りを意識しながら保育をし、園児と園児の心をつなぐ援助を心がけたか。	B	
3 最後まで粘り強く取り組む子供	自分で目標を決め最後まで諦めずに取り組める援助と環境構成を整える。	遊びの中で、工夫したり協力したりできる環境や保育教諭の援助を意図的に考えて教育・保育を提供できたか。	B	○園児が考えたり試したりすることができる環境を作り、ヒントを出しながら、粘り強く取り組む経験ができるように努めた。 ○頑張っている姿を保護者や他の保育教諭にも伝え、様々な人から認められる喜びを味わえるようにし、自信につなげていった。 ▲自ら好きな遊びを見つけることができにくい園児が多く、保育教諭が仲介したり一緒に遊んだりすることで、やってみようとする姿が見られた。 ◎園児が自らやってみたいと思える環境について、保育教諭同士が話し合ったり、環境の再構成をしたりできるように、話し合って進められるようにする。
		一人一人の興味や発達を考慮した遊びを提供するための教材研究を心がけたか。	B	
		最後まで諦めずに取り組む意欲や態度をはぐくむための援助と環境構成を整えることができたか。	B	

Ⅱ 施設の機能に関わること

分野	項 目		評価	○取り組み状況 ▲課題 ◎改善策
教育及び保育の 全体的な計画に 関すること	園児理解と その対応	幼保連携型認定こども園の 教育・保育において育みたい 資質・能力及び「幼児期の 終わりまでに育ってほしい 姿」を考慮して指導してい るか。	A	○クラスだよりや川西タイムズなど「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、10の姿を入れるようになった。 ○前半は異年齢の交流が少なかったが、後半の造形展やサンタごっこでたくさん交流した。学ぶことが多く、相手の子を思いやり、意欲的に取り組んだりする姿が見られた。 ▲担任だけでは経験に差があるため、フリーや特別支援ルームの担任等も好きな遊びの充実に参加できるようにしてはどうか。 ◎保育教諭同士が連携し、チームとして環境を整えていくようにする。 ◎異年齢交流が好きな遊びでもできるように、遊びの方向性を共通理解しながら関わりを増やす。
家庭との連携・ 協力に関するこ と	保護者との 相互理解・ 対応等	園児の様子や日々の教育及 び保育の意図などの説明を 通じ、保護者との相互理解 を図るよう努めているか。	A	○早朝延長利用の園児の保護者と話す機会が少ないが、担任が会った時には必ず園の様子を伝え、ホワイトボードで日々の様子を知らせている。また、川西タイムズ、クラスだよりなどを通じて園内での様子を発信している。 ○キッズリーアプリにて手紙や園児の姿を配信したり、ドキュメンテーションを貼り出したりしている。視覚的に見てもらうことと同様、実際に目と目を見て園児の様子を話していくことが大事だと思い、努めている。 ▲気になる園児の保護者には、意図的に家庭での様子を尋ねる機会もあるが、一人一人の家庭での教育方針までは把握できていない。 ◎家庭との連携を密にし、必要に応じて詳しく話をしていく。
地域との連携に 関すること	地域・自然 等の関わり	「こころとからだ」に重点 目標を置いた取り組みがで きているか。 ・命の教育について	B	○今年度は、地域の方の力を借りて、バケツ稲や神吉地区がしている綿花の栽培にも挑戦した。 ○米田まつり、ボロ来園、地域のサツマイモ植えや芋掘りなど、地域の行事にも参加することができた。 ◎飼育しているウサギやカブトムシ、スズムシやメダカなどの世話を決まった職員だけでなく、全職員と園児とが一緒に行い、続けていくことで、命の大切さを感じたり、感謝の意持ちをもったりできるようにしていく。
小学校との連携 に関すること	小学校との 円滑な接続	小学校教育への円滑な接続 に向けた取組を行っている か。	B	○川西小学校5年生と、交流給食や音楽会の相互参観ができ、5歳児の音楽会を見てもらった後に感想を教えてもらったことが園児の喜びにもつながった。 ▲校長先生が造形展、音楽会などに来てくださったが、1年生の担任などの教諭にも園児の姿を知ってほしい。 ◎引き続き8校園長会やユニット活動を通して、学校園の取り組みについて情報交換し、卒園した後の児童の姿を見たり、教育・保育の内容について考えたりする機会をもちたい。
安全対策に関す ること	事故・災害・ 感染症対策	感染症等のマニュアルをも とに、避難訓練・事故防止・ 安全対策を行っているか。	A	○看護師が配置されたことで、感染予防に必要な嘔吐処理なども研修を通して、各職員が協力しながらできるようにしていった。 ○避難訓練の不審者対応では、職員に予告して行ったが課題点が多く見つかった。いつどこから来るかわからないことから、再度話し合い、対策を考えたのち予告をせずに避難訓練を実施した。 ◎様々な状況での避難訓練の必要性を感じたため、実践的な訓練をしながら、職員も園児も自分で考える力を高められるようにする。

Ⅲ関係者評価

I 経営の重点に 関すること	・今年度より保護者会に移行し、役員の行事参加が大幅に減ったことを知り、働く保護者が増加していることを考えると当然でありこれからも負担のない範囲で進めて行く必要がある。	
II 施設の機能に 関すること	・幼小連携で職員同士がこどもの育ちを理解し合うことはとても大切であるということが分かった。こどもにとっても不安を解消でき、就学への期待も膨らむことから、評議員側からも小学校にアプローチをしていこうと思う。 ・コロナ前はシニアクラブへの交流がこども園で行われていた。会員の人数は減しているが、こども達との触れ合いを楽しみにしている方もいるので次年度は計画をしてもらいたい。 ・I C Tの活用には園が要望している通り各クラスにタブレット等の教材が必要。保護者にも発信できるなら園理解がもっと深まるのではないかな。	